

# 理工系コーオプ教育プログラム(情報理工学部)

対象 **情報理工学部** **3年次** **4年次** 開講時期 **2月~7月** ※協力企業と調整

専門的な学びの成果を企業で実践。特別(卒業)研究の一環として3カ月のインターンシップに取り組む専門性の高い独自のプログラム。

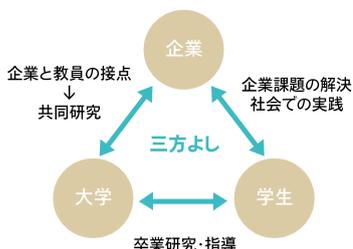
本プログラムは、情報理工学部特別研究ⅠとⅡA/ⅡB内で実施される教育プログラムです。企業の社員と大学の教員・学生が協業して、実際に「モノ」を作成し、最終的に成果物(プログラミング/ソフトウェア、ハードウェア、仕様書、調査レポート、企画・提案書等)として提示することを経験します。この経験や成果を各個人の卒業研究につなげます。教員も定期的(1カ月に1回)に企業へ同行し、企業の方と共に学生の指導にあたります。



成果報告会(公開)の様子

## ！企業様にご協力いただく内容

企業・学生・大学のメリット



課題の提供



3か月以上(1週間に1回)のインターンシップ受け入れ



顔合わせ会・キックオフ・中間報告会・成果報告会への参加



実習日報の確認・コメントの記載

## プログラム内容

### 事前学習



2月~3月  
・オリエンテーション  
・テーマに向けた準備  
・顔合わせ会

### 実習



3月~6月(3か月以上)  
・キックオフ及び成果報告会(社内向け)  
・1カ月に1回教職員同行による情報共有もしくは中間報告会

### 事後学習



7月  
・レビュー  
・成果報告会(公開)

## MESSAGE

### 協力企業

徐々に充実していく質問内容から、学生さんの成長を実感。

ものづくりを通じた産学連携を行うために参画。3回目となる今回は、学生さんの卒業研究に協同で取り組みました。やりとりを重ねるなかで学生さんの質問内容が徐々に変わっていき、プログラムの後半では的確に要点を抑えられるようになったのが印象に残っています。研究の完成が楽しみです。



堅田電機株式会社  
技術部 次長

山下 岳人 (やました たけと)

### 受講生

ハードウェアの設計に初挑戦。専門分野であるソフトウェアへの理解がさらに深まりました。

大学ではコンピュータのソフトウェアに触れる機会が多いのですが、今回課せられたのは基板の設計。技術者の方に基礎から教わりながら取り組みました。ハードウェアが確実に動作することの重要性や、設計には明確な根拠が必要であると知ったことで、ソフトウェアへの理解も深まったと思います。



情報理工学部  
情報理工学科 4年次生

浦 千尋 (うら ちひろ)

### 教員

理工系の専門スキルが社会でどう生かされているか実践的に学ぶ3か月間。

このプログラムでは、学生が3か月という長期にわたって実際の仕事に携わります。大学で学ぶ専門知識や技術・技能が、実社会でどう活用されているのかを体感することにより、学びへの動機がさらに深化。現役で活躍する技術者に尊敬の念を抱きながら、自身の将来のイメージも形成していきます。



情報理工学部  
教授

蚊野 浩 (かの ひろし)

## 協力企業実績 2021年度課題

### 課題提供企業

- 堅田電機株式会社

### 研究課題

- 人工大理石透過型LEDタッチディスプレイの高画素化、大画面化のための改良設計